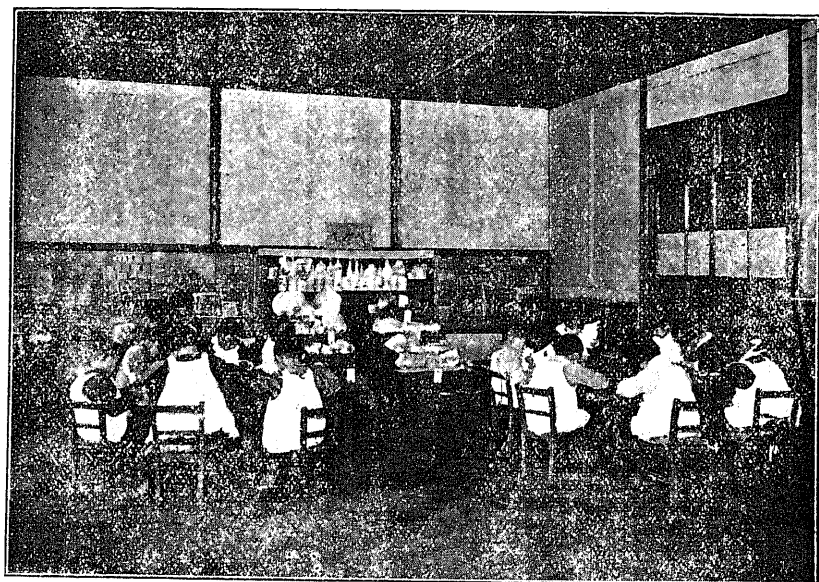




八百屋遊び

——幼児の生活（三）——

「おとなのするやうに、自分でも買物の真似がしたい。それよりもなほ、賣り手になって見たい。」斯ういふ心持を動機として、先づ八百屋の店が作り始められます。壘・罐詰・籠などから大根・白菜・慈姑、さては切り干し芋の細いのまで、その製作の一つ／＼には、厚紙や粘土を材料とする各種の手技工程がとり入れられてあります。一群の幼児達は同じ厚紙で貨幣を用意致します。いづれも、練習とか稽古とかいふ練習意識を全く離れて、自分達の仕事に専念没頭して居ります。——新保育法中の所謂「目的保育」の一齣であります。（倉橋惣三）